



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

令和7年10月26日(日)  
秋の合同剪定会に参加しました 編

能代バイパス黒松友の会の剪定会は、一昨年秋から初日が日曜日、二日目が月曜日という日程になりました。以来、ずっと初日に参加していますが、今回も例に漏れずお天気に恵まれ、剪定日和となりました。NWの松は上下半分ずつ二人がかりで剪定していますが、この日の上半分は春に続き、能代河川国道事務所の成田隼人さんをお願いしました。

開会式後の講習会を毎回受講していますが、いざ実物の前にすると習ったような枝ぶりは見当たらず、これでいいのかなあと不安な気持ちでハサミを動かし続け、気づけば何かスカスカに…を繰り返しています。それでも次の剪定会時には必ず緑の葉がふさふさと茂っていて、「こんなことでは負けへんで〜！」という黒松の生命力を感じます。

「葉を摘み取った箇所は永遠に芽が出ません」という講習資料の一文を何度も思い出し、迷いながらではなかなか進みません。古い葉を摘んでいく秋のもみあげでは、手や指先も運動不足であることを実感します。

巡回されている講師の方には、道路側の手の入りにくい枝を切って形を整えていただきました。また、今回切ってしまうわずに、春からの黒松の成長を見て、次の剪定会で缺を入れるかどうかを考えても大丈夫といったご指導をいただきました。日々、目先のことで精一杯の私は、目の前の枝をどうしよう？しか考えられませんが、この先、どんな樹形にしたいのかを考えながら剪定する黒松管理の奥深さを感じました。まずは、次の剪定会まで枯れずに元気でいてね！

今回の剪定会で生じた枝葉は来春まで木高研で自然乾燥させ、市民参加の製炭体験会をまた開催したいと考えています。ご指導くださいました講師の皆さま、ご準備・サポート下さいました事務局の皆さま、今回も大変、お世話になりました。

文： 渡辺 千明



お天気が下り坂予報だったためか、50人ほどの参加者がありました。今回も黒松オーナーとなられた勝長さんと澤畑さんにお会いしました。



春の緑摘みから負けずに元気に茂っています(上)。迷って何度も同じところに手をかけているうちにまたもスカスカに(中)。剪定した枝見本。土のう袋2つ分になりました(下)。



14時過ぎに成田さんにバトンタッチ。上半分は脚立に乗らないと届きません。